

「恋人の聖地」に鐘再び

「恋人の聖地」に鐘の音再び。三豊工業高校（観音寺市大野原町）の生徒たちがこのほど、学校近くにある一の宮公園（同市豊浜町）の壊れて鳴らなくなっていた時計塔の鐘をボランティアで修理した。夕日に染まる浜辺には再びロマンチックな音が響いている。

同公園は2000年にオープン。「恋人の聖地」にも選ばれ、芝生広場の時計塔「一の宮ドリームタワー」はシンボリックな存在。7月20日に時計塔越しに夕日が沈むように設計されており、「その時、願いを込めて鐘を鳴らせば、夢がかな

三豊工高生

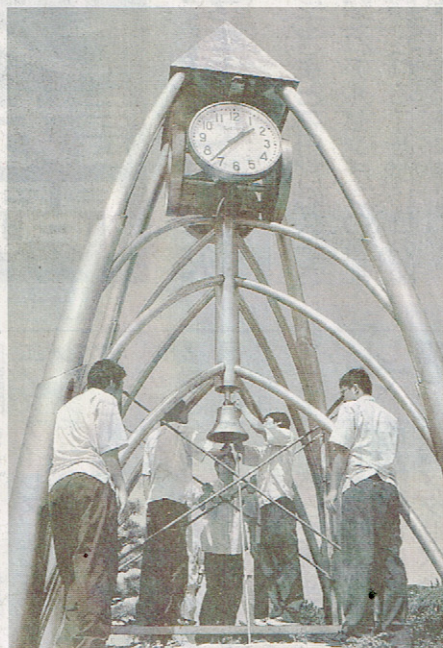
う」とされている。

しかし何年か前から、鐘の分銅部分が壊れ、鳴らなくなっていたという。この状態を見かねた同校の生徒たちが、地域貢献活動の一環として今回、修理を買って出た。

一の宮ドリームタワーを修理

作業は13日に行い、同校メカトロ部の2、3年生ら9人が参加した。鐘の中の分銅と、塔の下のハンドルをつなぐワイヤをつなぎ直し、微調整を繰り返しなが

ら、約1時間かけて修理を行った。同校では9月から、幼稚園や小学校などに、生徒たちが科学実験の「出前」を行う活動にも取り組む。



一の宮ドリームタワーの鐘を修理する三豊工高の生徒たち
観音寺市豊浜町

終えた。

3年生で生徒会長の垣見宜男君(18)は「事前に修理が必要な部分を調査して修理に臨んだ。ずっと大事に使ってほしい」と話していた。